

自殺の現状と課題について

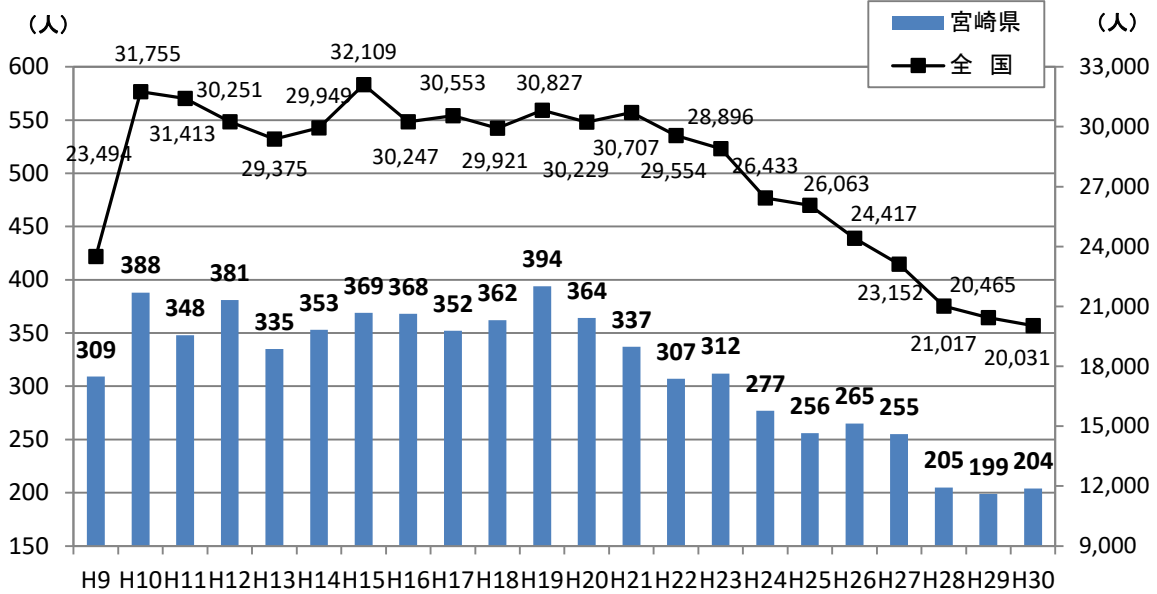
資料1

① 自殺者数について

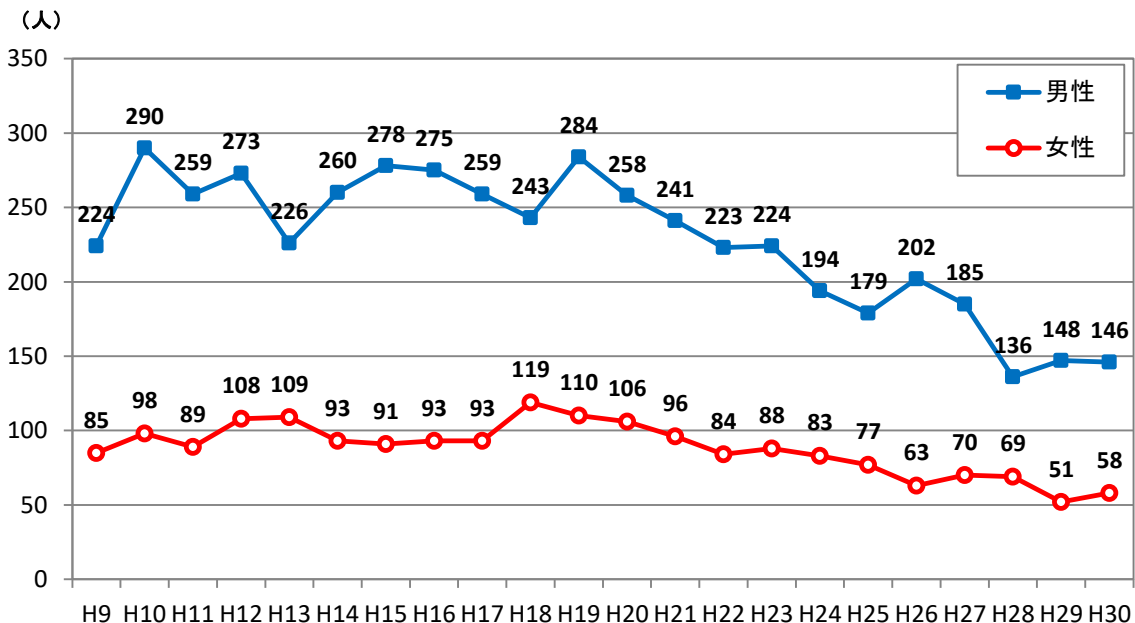
- 本県の自殺者は、ここ数年減少傾向にあったが、平成30年は204人(前年比+5人)と、増加に転じている。
- 男性の自殺者数は、女性の約2.5倍(自殺者数に占める男女別割合:男性約72%、女性約28%)となっている。

■ 全国と本県の自殺者数の推移(平成9年~30年)

※ピークからの減少率
 全国 H15/H30 38%減少
 本県 H19/H30 48%減少



■ 本県の男女別自殺者数の推移(平成9~30年)

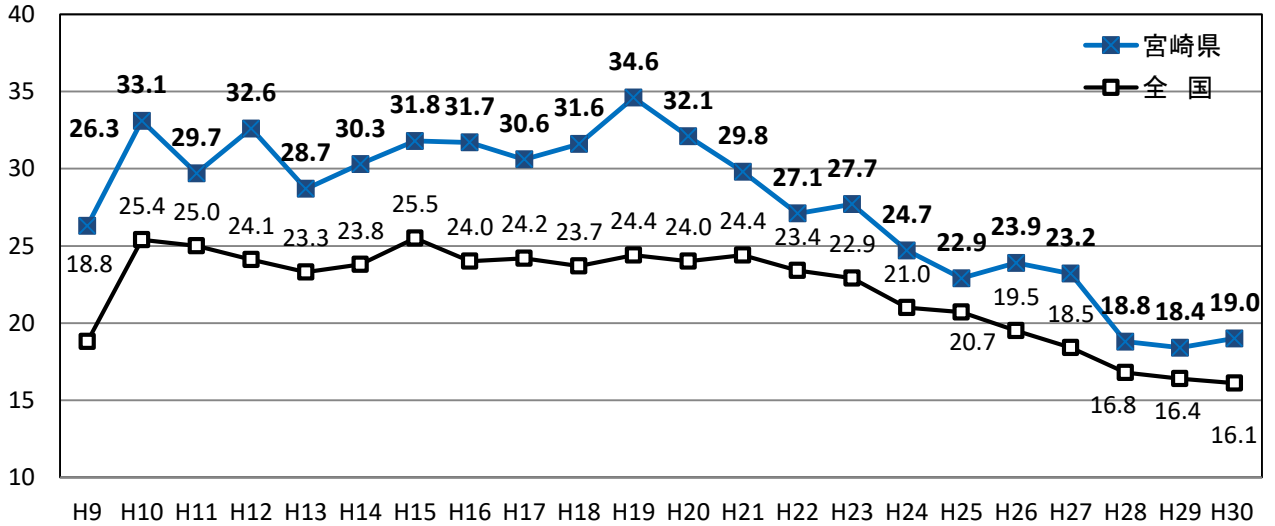


②自殺死亡率について

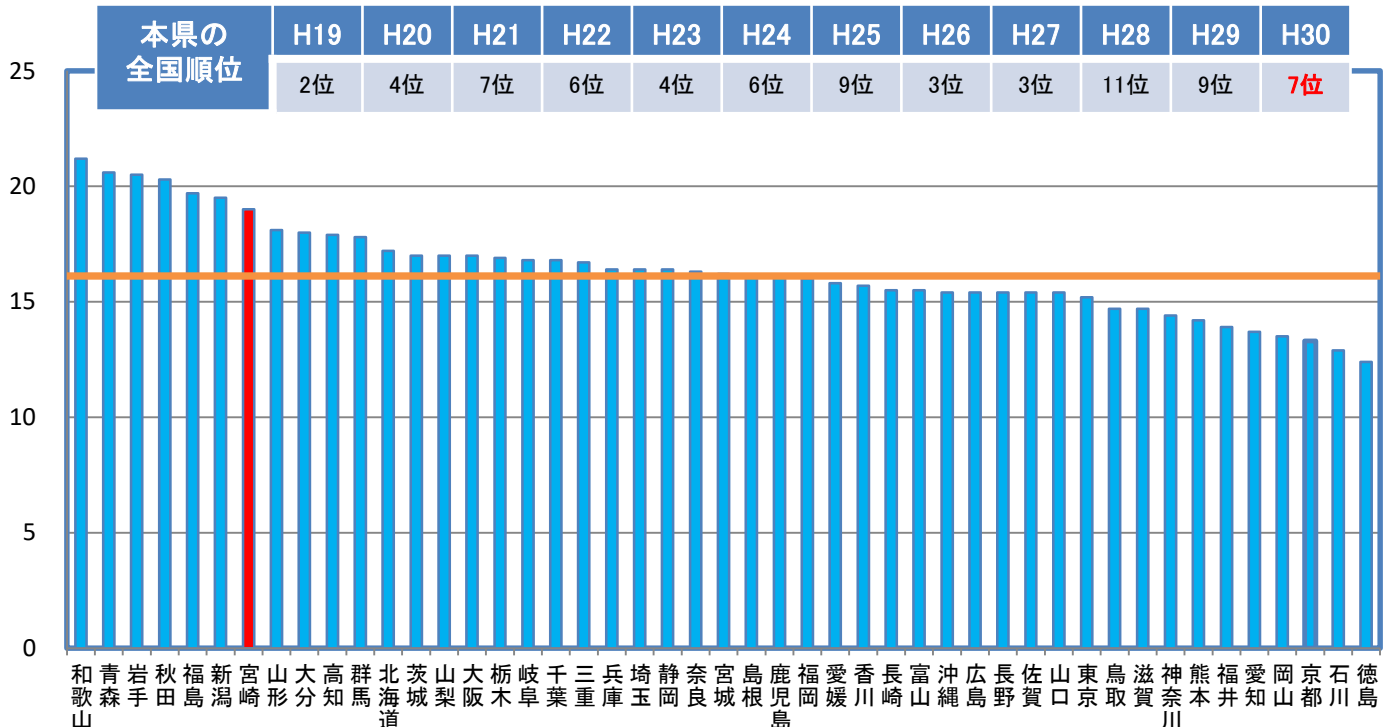
- 本県の自殺死亡率(人口10万人当たりの自殺者数)は、全国平均を一貫して上回っており、平成30年は19.0人(前年比+0.6人)となっている。
- 都道府県別で比較すると、本県は全国で7番目(九州では1番目)に高くなっている。(H29年=9番目、H28年=11番目、ピーク時H19年=2番目)

■全国と本県の自殺死亡率の推移(平成9年~30年)

(人)



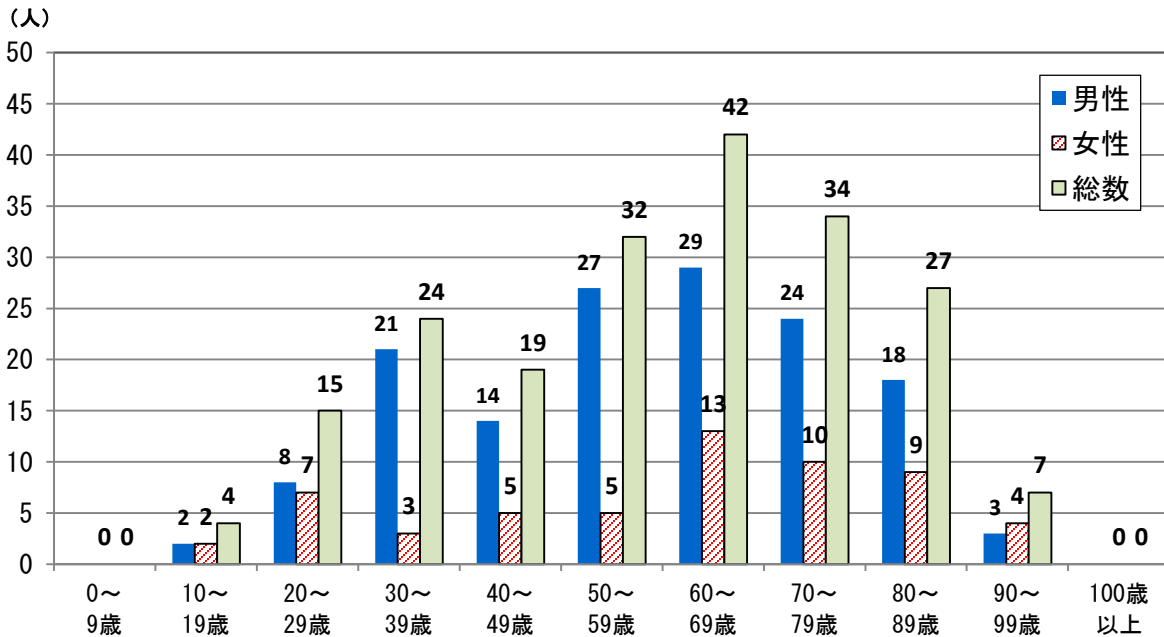
(人) ■都道府県別の自殺死亡率の比較(平成30年)



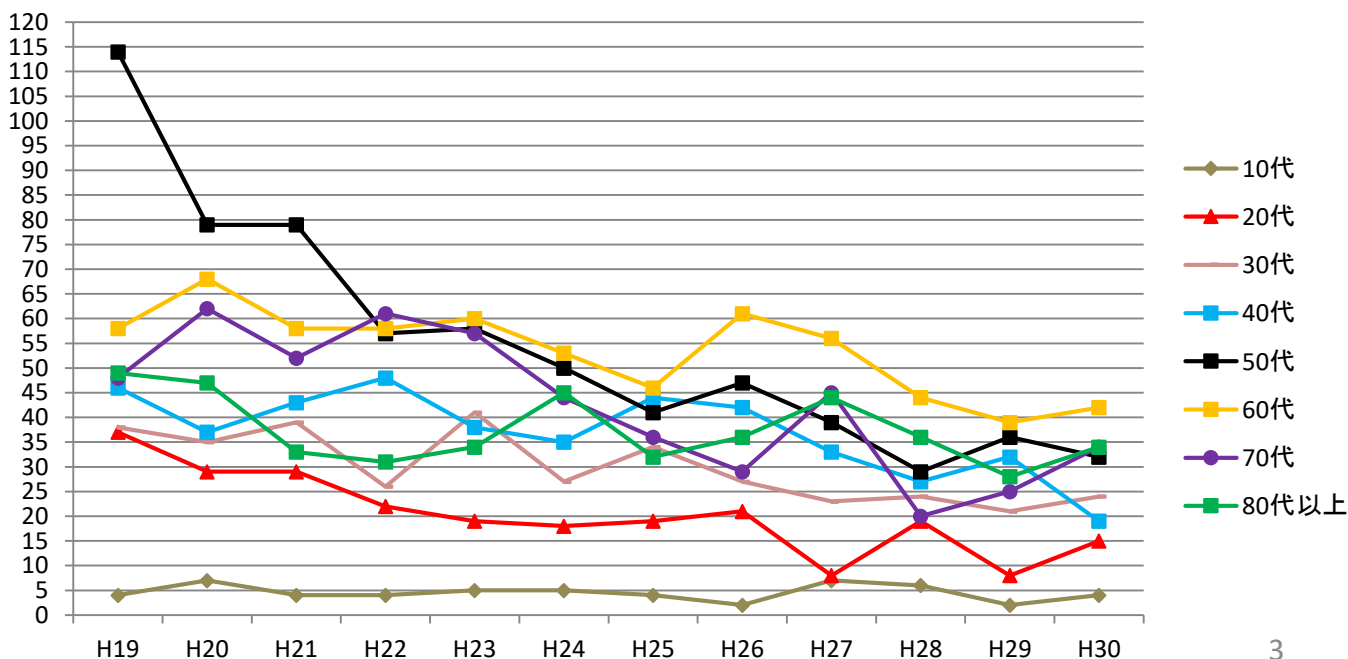
③年代別自殺者数について

- 年代別自殺者数は、「60代」が最も多く、次いで「70代」、「50代」の順となっている。
- 男女別に見ると、男性は、「50代」から「60代」の働き盛り世代が依然として多く、女性は、60代が最も多い。
- 平成19年以降の年代別自殺者数の推移を見ると、どの世代においても、増減を繰り返しながらも減少傾向にある。
- H29年比で見ると、「50代」、「40代」の働き盛り世代が減少している一方で、「20代」、「70代」の自殺者の増加が多い。

■年代別・男女別自殺者数(平成30年)



■年代別自殺者数の推移(平成19～30年)



④年代別自殺死亡率について

- 平成19年以降の本県の年代別自殺死亡率の推移を見ると、どの世代も年ごとの増減はあるものの、概ね減少傾向にある。
- 男女別で見ると、平成29年と比較して、男性は30代、70代、女性は20代の自殺死亡率の増加の幅が他の世代より大きい。

■全体の年代別自殺死亡率の推移(平成19年～30年) ※H20. H21. H22.H23分を省略

年齢階級	H19	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	対H19差	対H29差
10～19歳	3.3	4.5	3.6	1.8	6.6	5.8	1.9	3.9	+0.6	+2.0
20～29歳	33.9	18.9	20.5	23.2	9.1	22.7	9.8	18.7	-15.2	+9.7
30～39歳	27.9	20.3	26.1	21.3	18.6	20.1	18.1	21.4	-6.5	+3.3
40～49歳	33.9	26.9	33.6	31.7	24.8	19.9	23.5	14.0	-19.9	-9.5
50～59歳	62.7	32.7	27.5	32.4	27.5	21.5	27.1	24.5	-38.2	-2.6
60～69歳	41.3	31.8	27.1	35.5	32.0	24.6	22.3	24.9	-16.4	+2.6
70～79歳	36.6	33.9	28.1	22.7	36.0	16.5	20.0	25.9	-10.7	+5.9
80～89歳	55.6	42.7	31.8	33.4	39.4	33.4	30.7	29.5	-26.1	-1.2
90歳～	83.8	54.1	25.8	34.3	41.5	26.8	33.5	27.8	-56.0	-5.7
全体値	34.6	24.7	22.9	23.9	23.4	18.8	18.4	19.0	-15.6	+0.6

■男性の年代別自殺死亡率の推移(平成19～30年) ※H20. H21. H22。H23分を省略

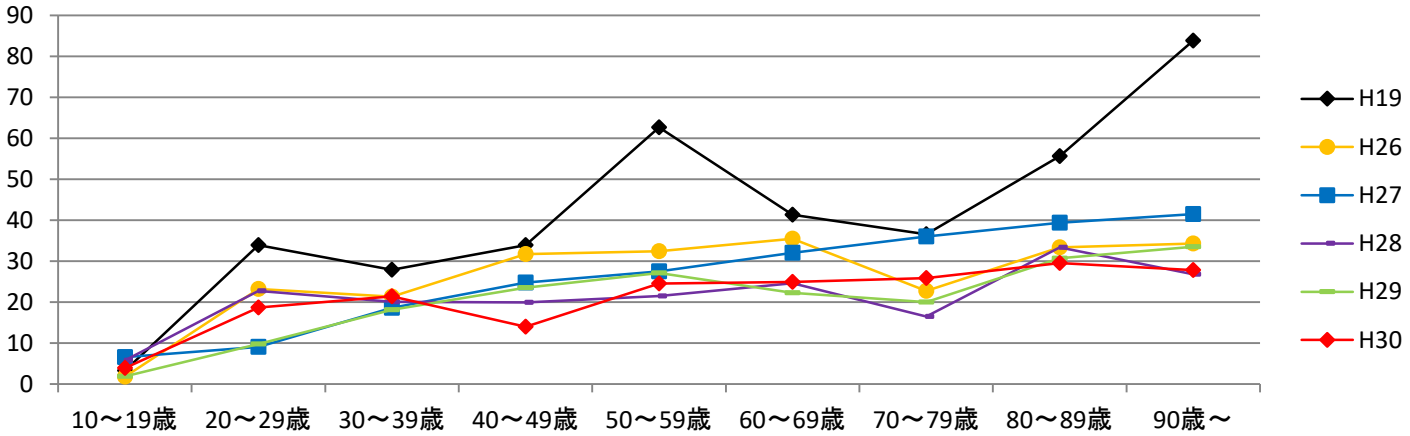
年齢階級	H19	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	対H19差	対H29差
10～19歳	3.2	5.2	5.3	3.6	11.1	5.7	1.9	3.9	+0.7	+2.0
20～29歳	47.3	19.6	33.3	40.7	9.2	31.5	19.8	20.0	-27.3	+0.2
30～39歳	36.5	27.6	40.8	37.1	34.8	31.0	26.6	38.6	+2.3	+12.0
40～49歳	58.7	46.7	50.9	54.9	43.6	28.9	37.9	21.1	-37.6	-16.8
50～59歳	97.9	56.8	43.2	48.7	38.2	27.9	45.9	43.4	-54.5	-2.5
60～69歳	71.5	51.1	44.0	58.0	48.7	34.8	38.0	35.9	-35.6	-2.1
70～79歳	58.1	47.8	42.9	35.7	58.2	26.0	30.4	40.4	-17.7	+10.0
80～89歳	89.2	64.9	39.2	56.8	64.0	53.8	43.9	52.2	-37.0	-8.3
90歳～	252.0	153.4	0.0	91.3	132.9	60.1	91.0	51.0	-201	-40.0
全体値	52.9	36.7	34.0	38.6	35.6	26.4	28.7	28.7	-24.2	0

■女性の年代別自殺死亡率の推移(平成19年～30年) ※H20. H21. H22.H23分を省略

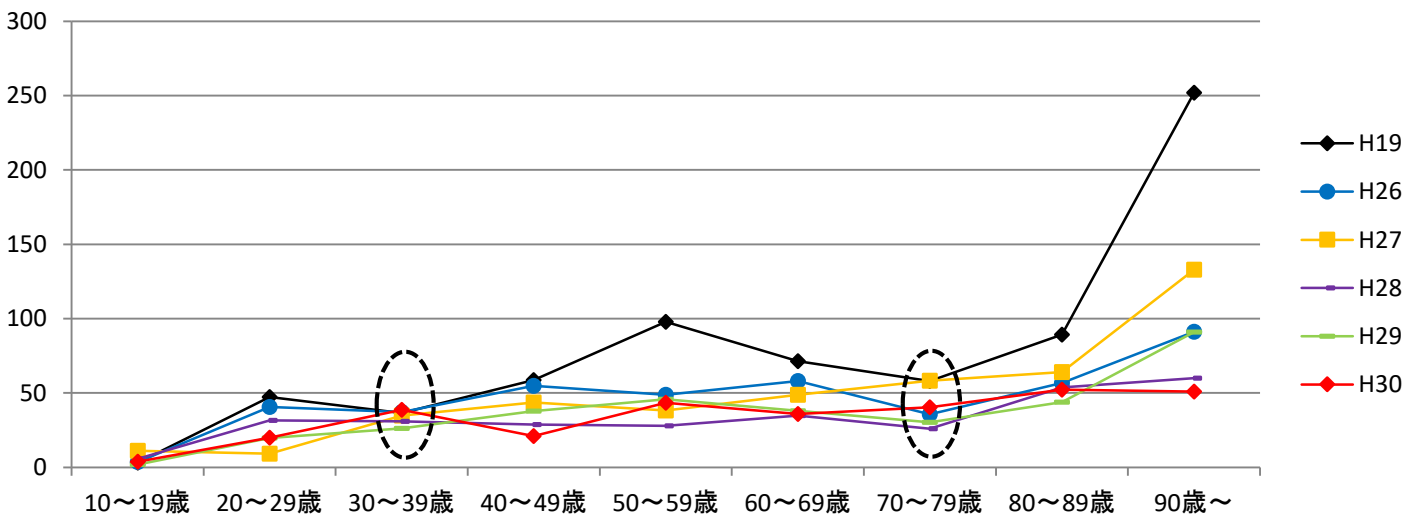
年齢階級	H19	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	対H19差	対H29差
10～19歳	3.4	3.6	1.9	0.0	1.9	5.9	2.0	4.0	+0.6	+2.0
20～29歳	21.4	18.3	8.4	6.5	9.0	14.2	0.0	17.4	-4.0	+17.4
30～39歳	19.9	13.2	12.0	6.1	3.1	9.8	10.0	5.2	-14.7	-4.8
40～49歳	11.3	8.8	17.6	10.2	7.2	11.4	10.0	7.2	-4.1	-2.8
50～59歳	29.1	10.1	13.0	17.3	17.6	15.6	10.1	7.3	-21.8	-2.8
60～69歳	14.7	13.9	11.4	14.6	16.5	15.1	7.7	14.8	+0.1	+7.1
70～79歳	20.2	23.2	16.7	12.5	18.6	8.9	11.6	13.9	-6.3	+2.3
80～89歳	38.5	30.3	27.6	19.9	25.0	21.3	22.8	15.8	-22.7	-7.0
90歳～	35.9	27.5	32.7	18.7	17.6	17.2	16.3	20.8	-15.1	+4.5
全体	18.2	13.9	13.0	10.7	11.9	11.9	9.0	10.2	-8.0	+1.2

【参考】④年代別自殺死亡率について(グラフ)

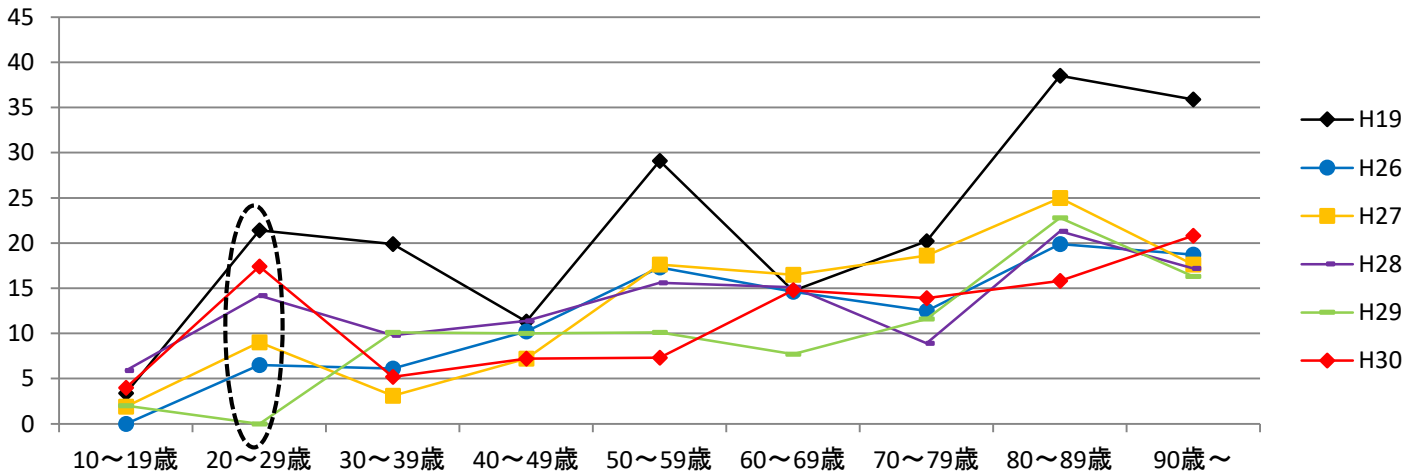
■年代別自殺死亡率の推移(平成19年～30年)



■男性の年代別自殺死亡率の推移(平成19～30年)



■女性の年代別自殺死亡率の推移(平成19年～30年)



⑤年代別死因順位について

- 本県の平成30年の年代別死因順位を見ると、若年層や若い働き盛り世代の年齢で自殺が死因の上位を占めている。
- なお、全体での死因順位を見ると、自殺は10位(全国9位)となっている。
(1位:悪性新生物、2位:心疾患、3位:脳血管疾患)

■年代別主要死因別順位(平成30年)

年齢階級	1位	2位	3位
10代	悪性新生物、 自殺		不慮の事故
20代	自殺	悪性新生物	不慮の事故等
30代	自殺	悪性新生物	不慮の事故
40代	悪性新生物	心疾患	自殺 等
50代	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
60代	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
70代	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
80代以上	悪性新生物	心疾患	老衰

■全体の主要死因別順位(平成30年)

【本県】

順位	死因
1位	悪性新生物
2位	心疾患
3位	脳血管疾患
4位	肺炎
5位	老衰
6位	不慮の事故
7位	腎不全
8位	アルツハイマー病
9位	慢性閉塞性肺疾患
10位	自殺

【全国】

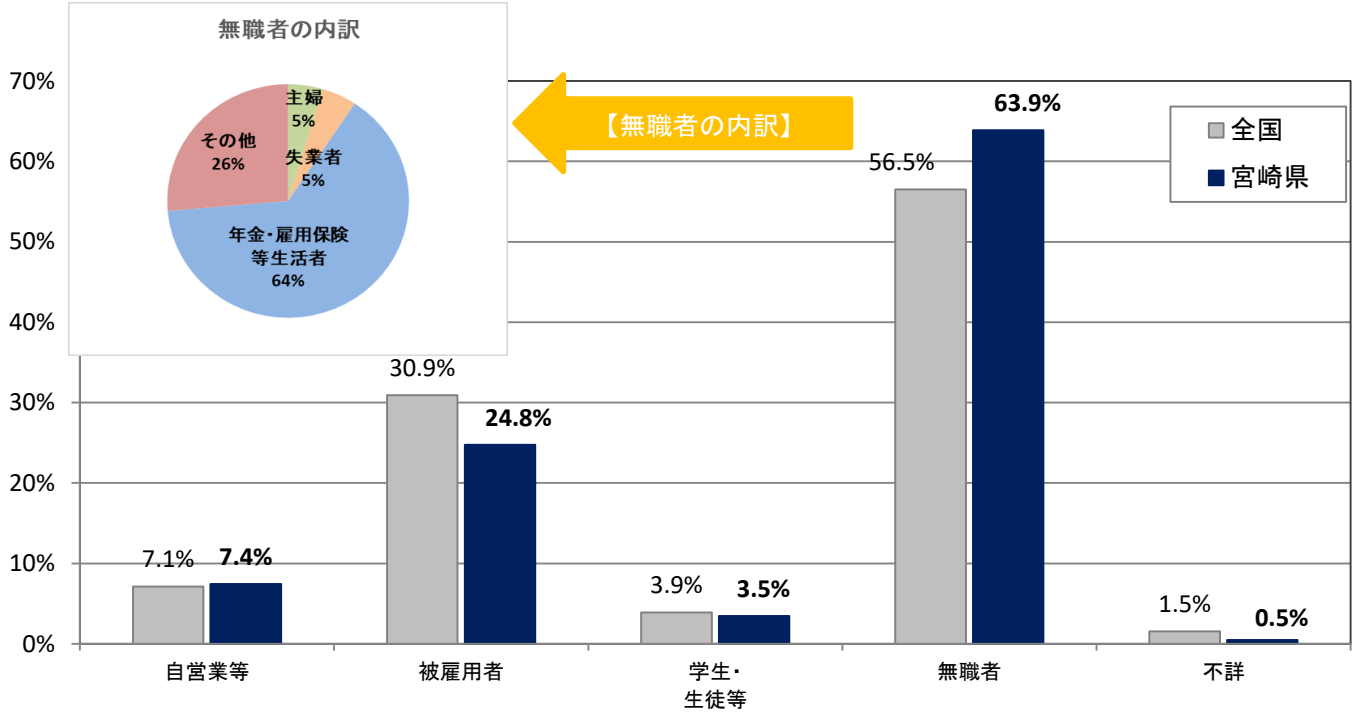
順位	死因
1位	悪性新生物
2位	心疾患
3位	老衰
4位	脳血管疾患
5位	肺炎
6位	不慮の事故
7位	腎不全
8位	血管性認知症
9位	自殺
10位	アルツハイマー病

⑥職業別自殺者数について

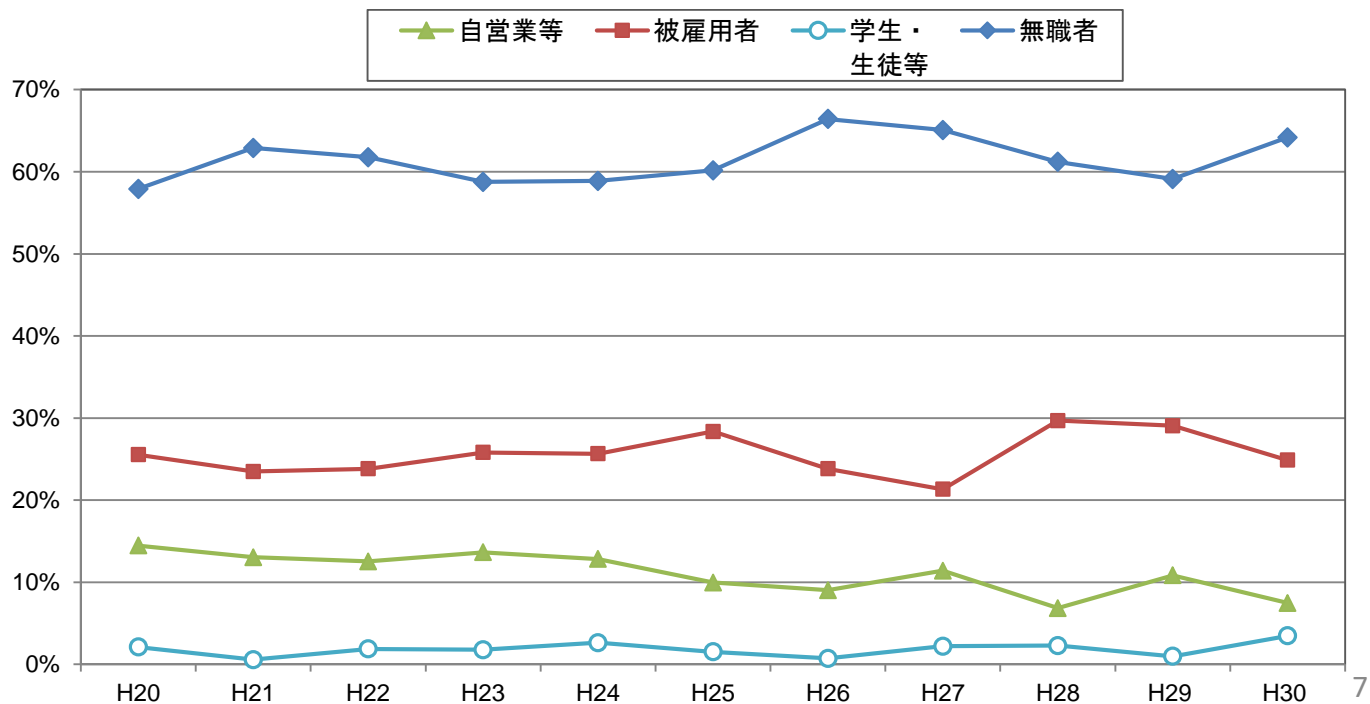
- 本県の職業別自殺者数の割合は、「無職者」が最も高く、次に「被雇用者」、「自営業等」の順となっている。
- 無職者の内訳を見ると、「年金・雇用保険等生活者」の割合が最も高く、昨年比で9名増加している。

【参考】H29年：74名（無職者全体：120名）、H30年：83名（無職者全体：129名）

■全国と本県の職業別自殺者数の割合（平成30年）



■本県の職業別自殺者数の割合の推移（平成20年～30年）



【警察庁「自殺統計」より県作成】

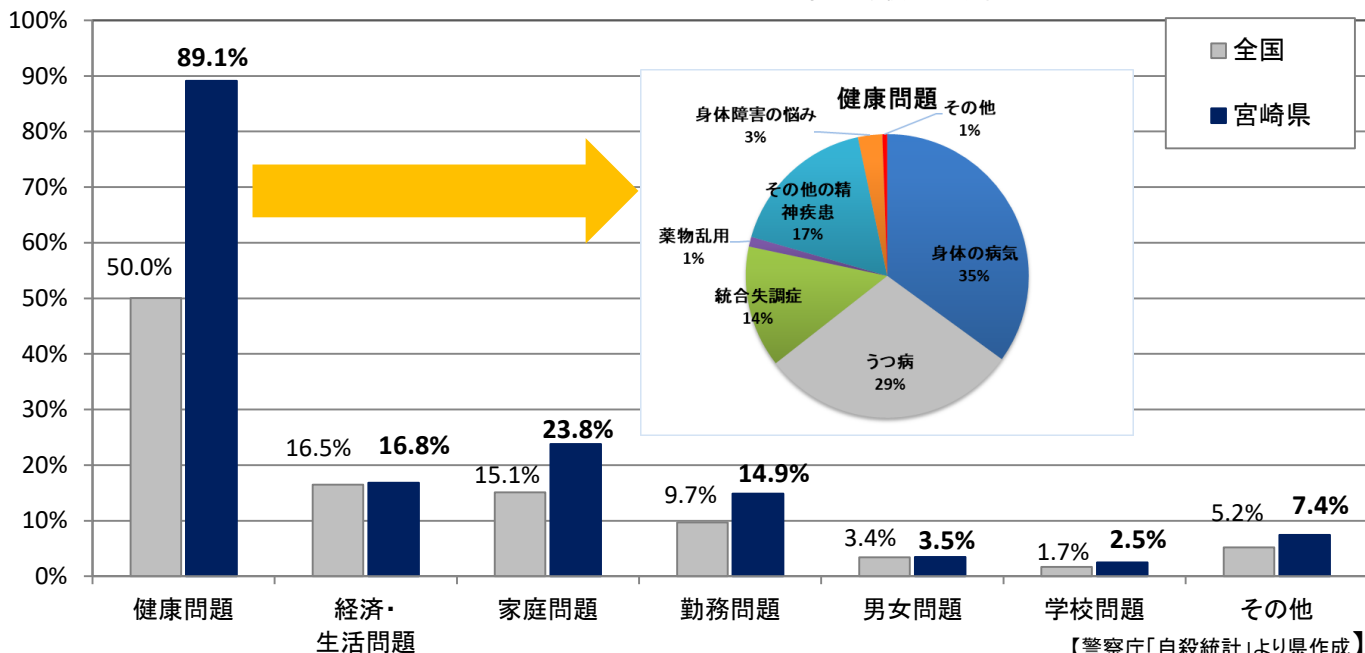
⑦原因・動機別自殺者数について

- 本県の原因・動機別自殺者数の割合は、「健康問題」が圧倒的に高く、その内訳を見ると、「うつ病」をはじめとする精神疾患が全体の6割以上を占めている。
- 【参考】健康問題の計上数（H29年：169個（うち精神疾患関連：97個）、H30年：180個（うち精神疾患関連111個）
- 全体的に「家庭問題」や「勤務問題」の割合が高まっている傾向にある。
- 年代別の原因・動機別順位を見てみると、10代では「学校問題」、50代では「経済・生活問題」の割合が高まっている。

注：「自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている」ことに注意が必要

■全国と本県の原因・動機別自殺者数の割合（平成30年）

注：原因・動機は自殺者1人につき3つまで計上可能



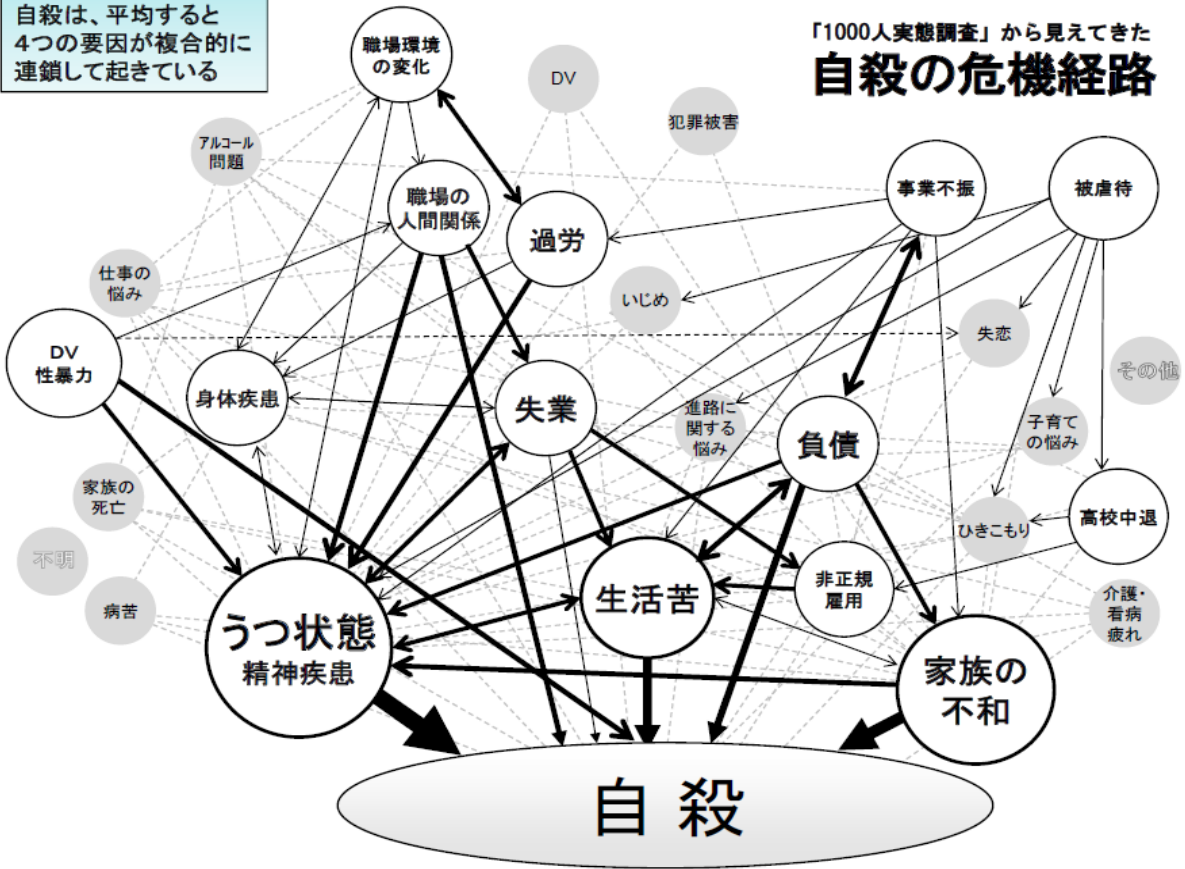
■年代別の原因・動機別順位（平成30年）

年齢	1位	2位	3位	4位	5位
10代	学校問題 (60%)	健康問題 (20%)	その他 (20%)	—	—
20代	健康問題 (45.5%)	家庭問題、経済・生活問題、勤務問題、男女問題、学校問題、その他 (各9.1%)			
30代	健康問題 (48.7%)	家庭問題 (17.9%)	経済・生活問題 (15.4%)	勤務問題 (10.3%)	男女問題 (5.1%)
40代	健康問題 (39.4%)	家庭問題、勤務問題 (各24.2%)		経済・生活問題 (9.1%)	その他 (3%)
50代	健康問題 (38.9%)	経済・生活問題 (27.8%)	勤務問題 (18.5%)	家庭問題 (11.1%)	男女問題、その他 (各1.9%)
60代	健康問題 (63.5%)	家庭問題 (17.5%)	経済・生活問題 (11.1%)	勤務問題 (6.3%)	その他 (1.6%)
70代	健康問題 (75.5%)	家庭問題 (15.1%)	勤務問題、その他 (各3.8%)		経済・生活問題 (1.9%)
80代以上	健康問題 (72%)	家庭問題、その他 (各12%)		男女問題 (4%)	—

【参考】自殺の危機経路について

自殺は、平均すると4つの要因が複合的に連鎖して起きている

「1000人実態調査」から見てきた
自殺の危機経路

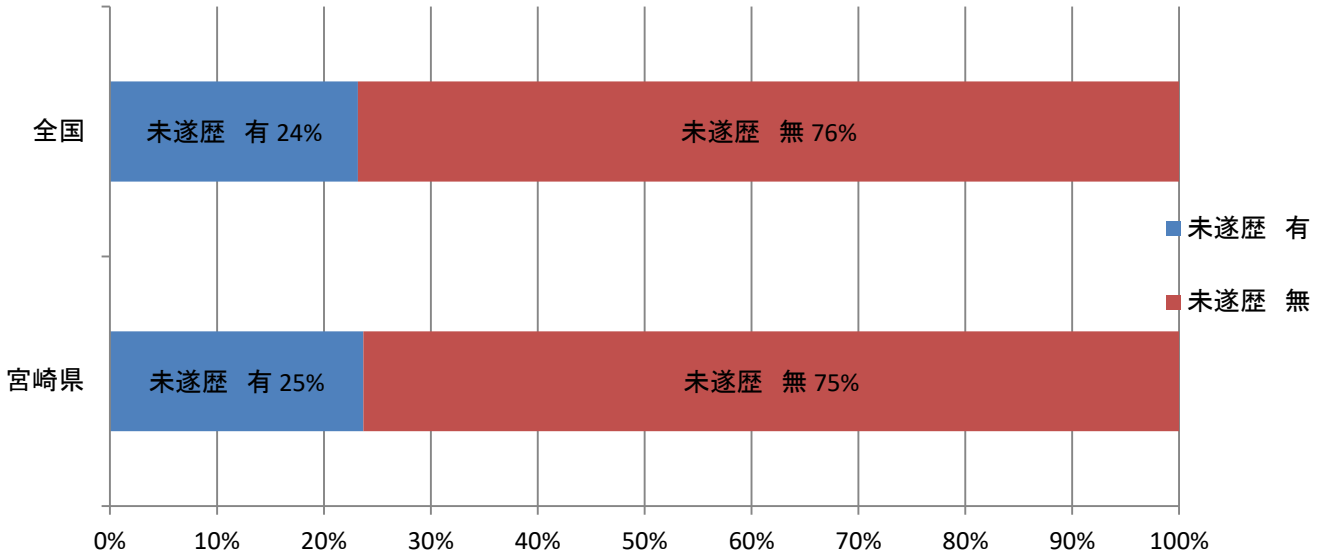


【NPO法人ライフリンク発行】

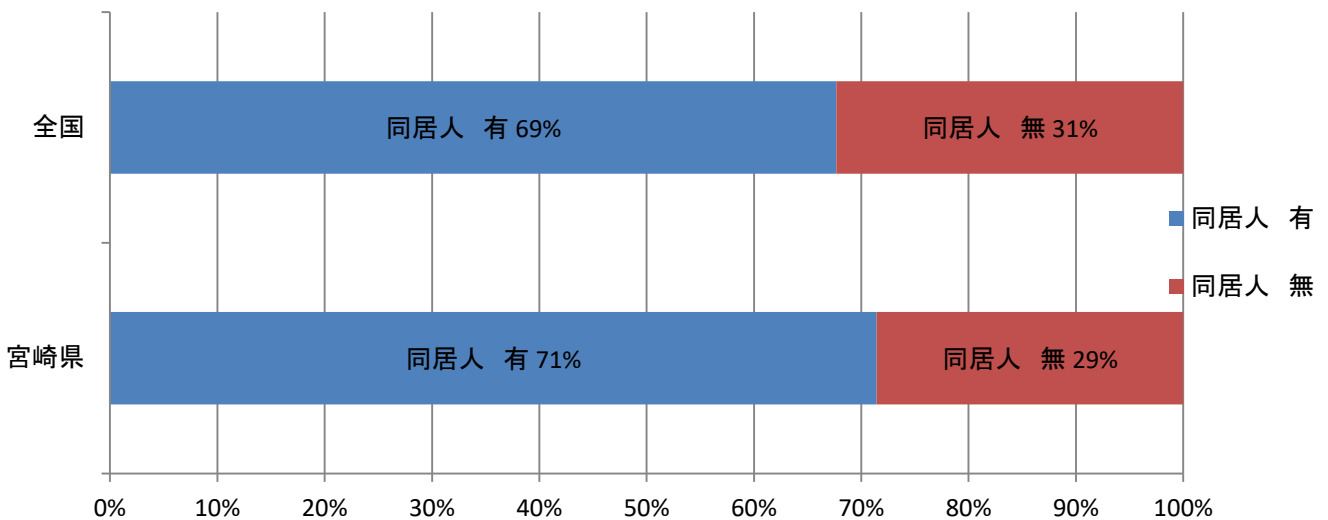
⑧ 自殺未遂歴の有無等について

- 本県の自殺者の過去の自殺未遂歴の有無を見ると、「未遂歴有」が25%、「未遂歴無」が75%となっており、4人に1人が過去に未遂歴を有している。
- また、自殺者の同居人の有無を見ると、「同居人有」が71%、「同居人无」が29%となっている。

■ 全国と本県の自殺者の自殺未遂歴の有無(平成30年)

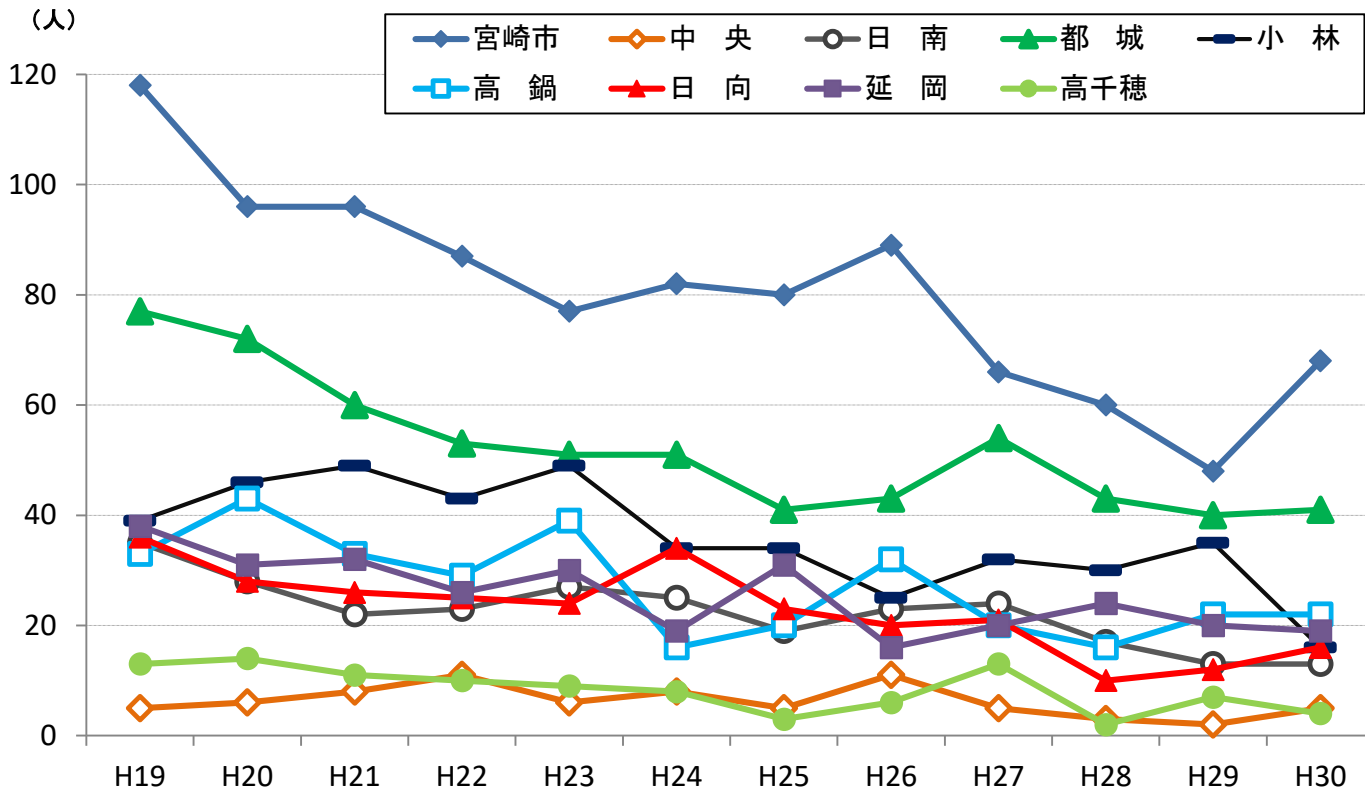


■ 全国と本県の自殺者の同居人の有無(平成30年)



⑨各保健所圏域別の動向について

■各保健所圏域別の自殺者数の推移(平成19年～30年)



■各保健所圏域別の自殺死亡率(人口10万人当たりの自殺者数)の推移(平成19年～30年)

